

第1学年2組 音楽科学習指導案

平成28年10月4日(火) 第3校時 音楽教室 指導者 本守 妃佐子

1 題材名 駅伝大会の応援歌をつくろう

2 題材の目標

- 言葉や音階の特徴に関心をもち、簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとする。
＜音楽への関心・意欲・態度＞
- リズム、旋律、構成を知覚し、思いや意図をもって音楽表現を創意工夫することができる。
＜音楽表現の創意工夫＞
- 課題に沿った音やリズムの組み合わせ方を身に付けて、簡単な旋律をつくることができる。
＜音楽表現の技能＞

3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の技能
① 反復、変化、対照などの構成に関心をもち、音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 言葉や音階などの特徴（言葉や抑揚、リズム、音階の構成音によって生み出される独特な雰囲気など）に関心をもち、音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	① 音楽を形づくっている要素（リズム、旋律、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、言葉や音階などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	① 言葉や音階などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（課題に沿った音やリズムの組み合わせ方、構成など）を身に付けて簡単な旋律をつくっている。	

4 指導と評価の計画（全4時間）

時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
		関	創	技	観	
1	○応援歌について理解し、グループでイメージしたリズムをつくる。 ・応援はどんなものがあるかについて学級全体で話し合い、つくりたい応援歌のイメージについて考える。 ・学級全体で10種類のリズムパターンを手拍子で確認する。 ・リズムパターンを用いて、16小節の2部形式(a、a'、b、b')の曲をつくる。その際、終止感、反復、変化、対照などについて知り、実際に音を出しながら個人やグループで試行する。	①				・反復、変化、対照などの構成に関心を持ち、音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 (ワークシート、観察)

2 本時	○組み合わせたリズムで、応援歌の旋律をつくる。 ・前時の学習を想起し、2部形式（終止感、反復、変化、対照など）を確認しながら、グループでつくったリズムを手拍子で確認する。 ・ペンタトニック（ヨナ抜き音階）について知る。 ・本題材における創作の条件設定（①ヨナ抜き音階②開始音と終止音③2部形式）を確認する。 ・タブレットPCやキーボードを使って、旋律のつながりを意識しながら旋律をつくる。		①			・音楽を形づくっている要素（リズム、旋律、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音階の特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 （ワークシート、観察）
3	○旋律に合う歌詞を付ける。 ・前時の学習を想起し、2部形式や音のつながりなどを確認する。 ・駅伝で応援する場面を想定し、気持ちを伝える語句を考える。 ・考えた語句を基に、ワークシートに歌詞を書く。その際、言葉の抑揚やリズムが当てはまらない等違和感が生じた場合は、つくった旋律の音やリズムを変更してもよいことを伝える。		①			・音楽を形づくっている要素（リズム、旋律、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、言葉や音階などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 （ワークシート、観察）
4	○応援歌を発表する。 ・作品発表会に向けて、グループで表現を工夫したこと等についての思いや意図について再確認する。 ・作品発表会では、旋律の特徴や応援するイメージを紹介してから演奏し、そのよさなどを共有する。 ・それぞれの応援歌の良いところを相互評価する。	②		①		・言葉や音階などの特徴（言葉や抑揚、リズム、音階の構成音によって生み出される独特な雰囲気など）に関心をもち、音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 （作品） ・言葉や音階などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（課題に沿った音やリズムの組み合わせ方）を身に付けて簡単な旋律をつくっている。 （ワークシート、観察）

5 指導上の立場

○題材観

創作活動を通して指導する内容として、中学校学習指導要領、内容A表現の（3）創作活動の事項の「言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること」、イ「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」とある。具体的な活動として、感じ取った言葉の抑揚やアクセントなどを手掛かりに旋律の音高を工夫したり、感じ取った言葉のもつリズムを手掛かりに旋律のリズムを工夫したりして、簡単な旋律をつくることが考えられる。その際、用いる音を限定するなど、生徒が容易に音のつながり方を試すことが大切である。本題材では、駅伝大会の応援をイメージさせ、10種類リズムパターンの組み合わせ、ペンタトニック（ヨナ抜き音階）により自分達の応援歌をつくらせたい。曲の構成として16小節の2部形式（a、a'、b、b'）の曲をつくる。反復、変化、対照などを確認し、リズムの変化や旋律の抑揚等を工夫させたい。

本題材の応援歌は新見市で毎年11月に行われている駅伝大会のためのもので、友達や先輩を応援する気持ちを音楽で表現させたい。授業では毎回リコーダーの練習として、即興的に音を選ぶ活動を行っている。1学期には言葉をリズムで表す学習を行った。これらの学習を通して、課題に沿ったリズムや音を組み合わせることにより簡単に旋律がつけられることに気付かせ、自分たちの気持ちが伝わるような応援歌をつくらせたい。

○生徒観

本学級は学習規律が整っていて落ち着いて授業を受けることができる。音楽の授業では、特別支援学級在籍生徒が3名参加しており、支援担当教員が専属で学習支援にあたっている。1学期に行われた宿泊研修の合唱大会では、積極的に発声することができた。しかし、声のバランスや全体の響きに課題があり、合唱隊形の工夫や楽しい発声練習など、声を出しやすい環境や雰囲気をつくり、自分達がつくった曲をしっかりと歌えるように指導していきたい。

創作においては、根拠をもって音を選ぶ学習は実施できていない。しかし、言葉をリズムで表す学習では「自分でリズムをつくることができて楽しかった」「オリジナルの作品がつくれて嬉しかった」などのふり返りも見られ、音楽づくりへの関心をもっている。意図をもって曲をつくることを通して、自分の気持ちを伝えるための創作に対する関心をより深めたい。

○指導観

学習指導要領の指導計画作成上の配慮事項（5）に「創作の指導については、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。」とある。タブレットPCの音楽創作アプリやキーボードを用いて、自分達が選んだ音がどのような旋律になるのかを確認しながら、リズムパターンや音の組み合わせ方を試行錯誤させ、応援歌を完成させたい。

本校では「一人ひとりが学ぶ喜びを実感できる授業実践」をテーマとして研究を進めている。少人数グループのストレスの少ない環境で、自分の意見を聞いてもらったり友達のアイデアに触れたりすることで授業への参加意欲が増し、応援歌をつくるというねらいを達成するために、すべての生徒が創作活動に取り組むことができると考える。創作活動においては、グループ内で役割分担を決め、それぞれの活動場でグループ全員が意見を出し合う時間を設けることで、個々の生徒の意見が反映される曲づくりを行い、生徒から「わかった」「できた」などの喜びが聞こえてくる授業づくりを目指している。

授業を通して、思いや意図をもってつくった作品にはそれぞれの価値があり、偶然やただ音を並べただけの作品とはちがうことに気付かせたい。自分たちの力でつくった曲を全体で聴いて良いところを認め合うことで、生徒の音楽づくりへの関心を高めていきたい。

6 本時案（第2時）

(1) 本時の目標

リズム、旋律、構成を知覚し、音階の特徴を感じ取って音楽表現を創意工夫することができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 前時の学習を想起する。 ・つくったリズムをグループで確認する。	○2部形式（終止感、反復、変化、対照など）を確認しながら、グループでつくったリズムを手拍子で確認する。	
2 本時の目標を確認する。	ペンタトニックを使って応援歌の旋律をつくろう	
3 応援歌の旋律をつくる。 (1) 創作の条件を知る。 ・ペンタトニック（ヨナ抜き音階）を使い、グループのリズム曲に合わせて旋律をつくる。 ・ハ長調の楽曲をつくる。 ・前時に確認した2部形式の構成を意識させる。 (2) グループで創作する。 ・タブレットPCやキーボードを使って、旋律のつながりを意識しながら旋律をつくる。	○生徒の発想を引き出すことができるよう、音楽的な条件を設定する。 ・ヨナ抜き音階は日本人になじみのある音階であり、曲としてまとまりやすい音階であることを知らせる。 ・ハ長調のヨナ抜き音階（ドレミソラ）を使う。開始音（ドミソ）と終止音（ド）も限定する。 ・小節ごとの音のつながりを意識させる。 ○タブレットPCやキーボードを使って、旋律のつながりを確認する。 ・創作活動が停滞しているグループには、生徒の思いや意図をくみ取りながら、音楽表現ができるように支援する。	・音楽を形づくっている要素（リズム、旋律、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音階などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 ＜音楽表現の創意工夫＞ （ワークシート、観察）
4 完成した曲を聴く。 ・応援歌のイメージや、曲づくりで工夫した点を説明し、タブレットPCに保存された曲を聴く。	○いくつかのグループを選び、全体で発表する。 ・創作の条件の確認、作品の特徴的な箇所等について教師からコメントする。	
5 ふり返りをする。 ・ふり返りシートに本時の授業で分かったことやできたことを記入し、発表する。	・目標に対して自分はどうかだったか、本時の授業で分かったことやできたことを記入し、発表する。	
6 まとめをする。 ・教師から本時のまとめをする。		
	ペンタトニックを使い、グループで工夫して旋律をつくることのできた	
	・生徒の発表を引用しながら、成果と課題について触れ、次時につなげる。	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

『グループで作曲したい応援歌のイメージを共有し、リズム、旋律、構成をおおむね知覚し、どのように作るかについて協議したりワークシートに記述したりすることができる。』